

2023年度 大学入学共通テスト 国語 古典(本試験) 分析

試験時間(現代文とあわせて)80分

難易度	出題分量	出題傾向
全体としては昨年並み。第3問(古文)はやや易化した。第4問(漢文)はやや難化した。	第3問で文章がやや長くなった。第4問はやや短くなった。設問数、解答数は変化なし。	第3問は昨年同様二つの文章を関連づける問題が出題された。第4問では官吏登用試験の予想問題と模擬答案という珍しい文章であった。

総評

共通テスト3年目にして出題の方向性が明確になったといえる。

第3問の古文では歌論『俊頼髓脳』からの出題であるが、内容は説話に近い。問4では俊頼の『散木奇歌集』を引用し、連歌や掛詞の理解を深める問題であった。形式は昨年と同様であり、対策をきちんと行っていれば戸惑うところは少なかったであろう。

第4問の漢文では、2年続いてきた漢詩ではなく、官吏登用試験の予想問題と模擬答案が出題された。非常に珍しい形式で、戸惑った受験生もいたかもしれない。試験問題と模擬問題ということからもわかる通り、文章はやや硬質で読みにくい。また、基本的な語や句法の知識があれば解ける問題が減少し、漢文の読解力が問われた。昨年在易しめだった分、今年は相対的に難化したといえるだろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第3問	古文	50点	<p>問1は通常の傍線部解釈の問題である。(ア)の「やうやう」、(イ)の「ことごとし」は重要古語である。</p> <p>問2は昨年同様の語句と表現に関する問題である。文法と敬語の知識があれば容易である。</p> <p>問3は内容合致問題である。このような広い範囲の内容を問う形式は、共通テストの定番となっている。</p> <p>問4は教師と生徒3人の会話文の空欄を埋める問題である。与えられた別テキストを通じて本文の理解を深めることが要求されている。文章は短く、それほど難解ではないが、掛詞を苦手とする受験生は少なくなく、苦勞した人が多いかもしれない。</p>

第4問	漢文	50点	<p>問1は例年通り語の意味を問う問題である。基本的な知識と文脈把握で解答できる。</p> <p>問2は傍線部解釈の問題である。対句的な表現も意識して解かなければならない。</p> <p>問3は返り点と書き下し文の組み合わせを答える問題である。例年通りの出題ではあるが、傍線部がやや長い。しかし基本的な句形の知識があれば対応可能である。</p> <p>問4・問6は傍線部の説明問題だが、比喩の理解が問われている。出題としては目新しいが、傍線部の前後の文脈から読み取ることが可能であり、焦らず対応したい。</p> <p>問5も書き下し文の問題であるが、前後の文脈が分かっていないと空欄に適切な語を入れることができない。</p> <p>問7は文章の大意を答える問題である。</p> <p>このように、問4～問7は文章読解の力が求められており、知識だけで得点することは容易ではない。知識で対応できる問題が多かった昨年度と比較して難易度が上がったと言える。</p>
-----	----	-----	--

受験生へのワンポイントアドバイス

まずは知識事項の習得が欠かせない。第3問の問1、問2や第4問の問1～問3は基礎的な知識が求められている。こういったところを得点源にできるようにトレーニングしなければならない。学校の授業や問題集で基礎固めをしっかりと行うことが大切である。

読解問題の対策も日頃の授業がベースとなる。教科書レベルの文章がきちんと読めなければ共通テストレベルの文章には太刀打ちできない。そのうえで問題演習を繰り返してほしい。